

千住博学長 学生向け緊急メッセージ

学生諸君へ

明けましておめでとうございます。

昨年は、未曾有の災害に際しアーティストとして何ができるのか突きつけられた年となりましたが、諸君は新年をどのような気持ちで過ごしていますでしょうか？私自身は、食べるものもままならない震災直後よりも、仮設住宅への入居が済み、新しい生活に向けて少しずつ歩きだしている今こそ、アーティストの出番ではないかと思っています。

そこで、かねてから繰り返し色々な機会にお話をしてきました女川町の被災住宅のため、諸君の作品を届けてもらいたく、ここに旗を掲げたく思います。

すべてを流された女川町の役場や、仮設住宅、被災住宅には、版画一枚なく殺伐とした空間で、街には大きなビルが横倒しになったまま、壮絶な冬を迎えています。そんな中で被災地の方々は本当に諸君の作品を心から待ち望んでいます。たった一枚の明るい絵があるだけで、人は生きる力を取り戻せるものと私は信じています。これまでの生活の絆を引き裂かれた被災地の方々にとって、作品を通じて諸君のようなアーティストの卵と新しい絆を作ることができるという側面からも、きっと意味のあることでしょう。芸術による平和創造、芸術による人間の良心復興を志している本学だからこそ、きっと力になることができるはずです。本当にみんなでやろうではありませんか。

作品は、油画、アクリル、日本画、染織、写真、陶芸などなど、仮設の小さな部屋にほど良いサイズということに心砕いてもらえれば、何でもかまいません。寄贈していただいた作品は、すべて宮城県女川町の所蔵品として、公共機関収蔵作品となります。それを3000戸の市民に貸し出す形を取ります。ですから、3000作品必要です。卒業生、関係者含めれば、不可能な事はありません。

また、女川町の仮設住宅の設計で、坂茂教授が2011年度の毎日芸術賞を受賞されました。その事もあり、広く国内外から注目されています。だから、可能な限り良い作品を送ってください。街がまるまる美術館になる感じです。この世界初の復興都市のモデルケースになるアートのすばらしいプロジェクトに、ぜひとも力を寄せて下さい。

私自身も10数作を提供し、諸君と同列に加わります。諸君のあたたかい気持ちを心待ちにしています。

2012年1月12日

京都造形芸術大学学長 千住博

千住博

追記：募集要項は2月上旬に告知します。作品は、3月に各自で女川に発送していただく予定です。